

# 農林水産大臣賞受賞

交流人口を意識した田布川地区でのむらづくり

ゆめほたる に一ぜろいちろく  
受賞者 夢蛸たぶがわ2016

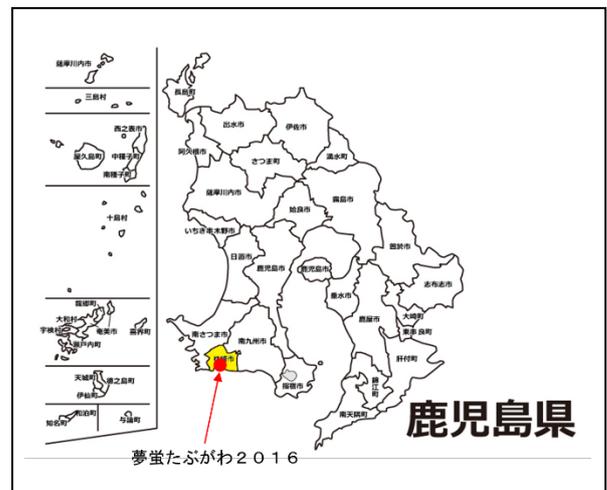
かごしまけんまくらざきし  
(鹿児島県枕崎市)

## ■ 地域の沿革と概要

枕崎市は、薩摩半島の南端に位置し、産業については、日本一の生産量を誇る鯉節の製造のほか、本格焼酎の生産やお茶やさつまいも、野菜、電照菊、牛・豚を中心とした畜産など農業も盛んなまちである。本土最南端の始発・終着駅である枕崎駅の整備、枕崎国際芸術賞展や港まつり「きばらん海」の開催など、交流人口の増加に努めている。

山地が取り囲む自然豊かな当地区は、市街地から約7km北部に位置する集落である。中心部を流れる二級河川に沿うように水田が連なり、周辺の丘陵地は区画整理された畑地帯となっている。

第1図 位置図



## ■ むらづくりの概要

### 1. 地区の特色

当地区の人口は、昭和45年時点では、700人を超えていたが、令和5年時点では217人にまで減少し、高齢化率は60%を超えている。高齢化・過疎化が進み、地域の活力低下や農地の荒廃化等多くの課題を抱えている。

### 2. むらづくりの基本的特徴

#### (1) むらづくりの動機、背景

田布川地区では、昭和57年から堆肥生産及び農作業の共同活動をしていた「たばこ八日会」が、平成23年に自然解散となった。そんな中、「たばこ八日会」の構成員の一部

第1表 地区の概要

事項	内容	
地区の規模	1自治会	
組織の性格	地縁的集団	
人口等	総人口	217人
	総世帯数	131戸
農業経営体数 (内訳)	農業経営体数	6経営体
	個人経営体数	3経営体
	団体経営体数	3経営体
	(内、法人経営体数)	3経営体
農用地の状況 (内訳)	総土地面積	400ha
	耕地面積	44ha
	田	7ha
	畑	37ha
	耕地率	10.9%
	一経営体当たり耕地面積	7.3ha

が中心となり、地域営農の円滑な推進を図ることを目的に、「田布川村づくり営農支援推進委員会」が発足し、話し合い活動が行われ始めた。この推進委員会の話し合い活動が契機となり、現在のむらづくり活動につながっている。

## (2) むらづくりの推進体制

次に紹介する3組織が連携し、それぞれ活動を行うことにより、田布川地区の住民の生活を支えている。

### ア 夢蛸たぶがわ 2016

元住民の有志11名の正会員と準会員で構成されている。

組織理念に、「地域住民の自治意識を高めて、福祉の増進と青少年の健全育成を願い、他地域との交流を深め、教育及び文化の振興と活力とぬくもりに満ちた自然豊かな地域づくり」を掲げ、総務部、環境保全部及び交流・文化部の3つの部会を設け、各種活動を行っている。

#### ① 総務部

- ・組織の管理運営に関すること
- ・事業計画、予算、決算に関すること
- ・各部や関係機関・団体との連絡調整に関すること

#### ② 環境保全部

- ・自然環境保全事業に関すること
- ・施設整備事業に関すること
- ・河川愛護活動に関すること

#### ③ 交流・文化部

- ・学習会、講習会に関すること
- ・青少年育成に関すること
- ・交流活動に関すること

### イ 株式会社 輝<sup>きら</sup>楽<sup>ら</sup>里 たぶがわ

地域福祉の維持・向上を目標として活動している。人口減少に伴い、当集落の小売店数は減り、唯一残った農業協同組合事務所に設置されていた購買店舗の閉鎖をきっかけに、移動手段はもとより、地域生活の基盤が崩れてしまうことに危機感を抱き、地域住民や本会の会員が出資者となり、平成27年2月に設立された。

同年8月に購買店舗を開業し住民からの相談窓口、高齢者が集う場所の提供、高齢者宅の見回りや惣菜や日用品の配達など、非営利的に様々な活動を行っている。

### ウ 集落営農組織 くらたの里 田布川

平成23年に設立され、地域内の営農の円滑な推進を図り、当集落の農業の振興と農業経営の改善を目標に活動を行っている。水稻の植付けや収穫などの農作業を自ら行えなくなった集落内の水田の所有者・耕作者から委託を受け、農作業を請け負っている。

組合員の出資金をもとに、組織の農業用機械の整備も進めており、それらの機械を共同利用することで、小規模経営農家の負担軽減を実現している。また、オーナー農園制度を取り入れ、集落内外の出資者に対し、農業に触れる楽しみや自分(家族)が携わった農産物を味わえる嬉しさを提供している。

このような活動により、地域営農の推進を図るだけでなく、地域内の水田の維持、活用、遊休農地の斡旋など水田の有効活用を図ることにより、地域の生活環境の維持にもつなげている。

第2図 むらづくり推進体制図



## ■ むらづくりの特色と優秀性

### 1. むらづくりの性格

話し合い活動の結果、平成23年に「集落営農組織くらの里田布川」を結成し、稲作等の受託作業が始まったほか、買い物弱者対策等生活支援を担う組織として、平成27年には、「株式会社輝楽里たぶがわ」が設立された。

平成28年には、地域の有志による「夢蛸たぶがわ2016」が発足し、枕崎市環境保全促進事業への取組や蛸の再生を目指したビオトープを整備するなど、地域の環境保全活動や地域活性化に寄与している。

また、平成28年から設置された地域おこし協力隊の存在も大きく、伝統行事の継承や地域イベントの活性化等様々な企画の実施や多面的機能支払交付金による農用地保全の共同作業等を通して、地域は自分たちで守っていききたいという機運が高まり、むらづくり活動の活性化につながった。

### 2. 農業生産面における特徴

#### (1) 農用地の保全及び景観作物の植栽について

当地区では、荒廃農地・遊休農地の増加を防ぐため、20年程前から「たばこ八日会」が中心となり、遊休農地にコスモスなどを播種・植栽する活動を実施していた。

現在は、「夢蛸たぶがわ2016」が主体となり、地域住民と協力し、地域の景観づくりや農用地の保全に努めている。地域住民の交流機会が広がるだけでなく、地域内外の住民から、「景観が保たれ、地域が華やいでいる」との声が聞かれ、見物客が年々増加していることが励みになるなど、地域を守るという自治意識の向上にもつながっている。

令和5年度には、地区の入り口にある遊休農地に県外の企業から提供を受けた赤ソバを播種し、非常に美しい赤ソバが一面に広がった。当該取組は、農用地の保全だけにとどまらず、珍しさも相まって、市外からの見物客が増えており、枕崎市全体の交流人口の増加にも寄与している。



写真1 遊休農地の管理作業の様子



写真2 遊休農地へコスモスの播種の様子

#### (2) 他組織と協力した取組である最適土地利用総合対策について

地域の農地を守るため、令和3年度から南九州市の養蜂農家及び行政と協力し、最適土地利用総合対策事業に取り組んでいる。

「夢蛸たぶがわ2016」が主体となり、5年間で約6.5haの農地を再生し、赤ソバを播種し、粗放的に管理を行っている。遊休農地が、解消されるだけでなく、蜜源の確保や蜂が越冬するための栄養源となっている。

事業終了後も現在の取組が継続できるよう養蜂農家及び県外企業の協力を得ながら、前述の赤ソバの播種面積の拡大を目指す方向で協議を進めている。

### (3) 集落営農組織くらの里田布川による稲作の継承について

前進組織である「たばこ八日会」の稲作部会から農作業受託を引き継いでおり、水田の農作業等を請け負うだけでなく、水田の遊休農地についてはオーナーを募り、米の栽培を共同で行うなど遊休農地の発生予防・解消に努めている。オーナー農園に関しては10aあたりの植付け・収穫等に係る管理費の出資を受け、収穫された米（10aで約450kg程度）はすべて出資者におさめている。当活動は、耕作されている水田一帯の荒廃防止だけではなく、現耕作者の水利管理や病害虫防除の作業軽減、地産地消の取組につながっている。



写真3 オーナー農園制度による田植え



写真4 オーナー農園制度による田植え

## 3. 生活・環境整備面における特徴

### (1) ホタルの舞うビオトープの整備について

当地区では、元来、季節の風物詩であるホタルが観賞でき、地域住民に楽しまれていたが、十数年ほど前からホタルが見られないとの声が聞かれるようになった。

そこで、河川にビオトープを創設し、ホタルの復活を目指すだけでなく、集落単位で環境・生物の保全に努め、地域住民の自然環境に対する意識の向上を図っている。

ビオトープの整備によりホタルが戻り、毎年近隣の小学校による見学や校外授業の場としての利用、ホタルと音楽が楽しめる夢螢コンサートなどを実施し、交流人口の増加、魅力発信につなげている。



写真5 ビオトープ整備の様子



写真6 ビオトープ研修の様子



写真7 夢螢コンサートの様子



写真8 飛び交っているホタル

## (2) <sup>おにびた</sup>鬼火焚きの実施について

当地区では、毎年年初に鬼火焚きのイベントを実施している。鬼火焚きとは、正月の7日に大やぐらを焼いて、正月飾りについてきた悪霊をはらう鹿児島県の伝統行事である。

少子高齢化により、郷土芸能や伝承行事の継承が難しくなり、地域の活力も衰退している地域も多い中、鹿児島県の伝承行事の継承と地域の交流人口増加を目的として「夢蛸たぶがわ 2016」が中心となり行っている。

この鬼火焚きは、市内の多様な組織と連携し、花火の打ち上げ、和太鼓演奏、よさこい踊りの披露なども披露され、毎年市内外より 200 名以上が訪れる地域の一大イベントとなっている。



写真9 鬼火焚き用杉トーチ制作の様子



写真10 できあがったやぐらの様子



写真11 鬼火焚き（子火）の様子



写真12 鬼火焚きの様子

## (3) 買い物弱者支援について

地域の有志で組織された「株式会社輝楽里たぶがわ」は農協事業所跡地に購買店舗を設置しており、「夢蛸たぶがわ 2016」のメンバーも出資を行っている。当地区は、市の中心部より離れた地域にあり、地域内の運転免許証を持たない高齢者などの買い物の手助けができればと活動に取り組んでいる。購買店舗は、高齢者宅への配達なども含め、1日に30名程度が利用しており、年間600万円の売上げがある。

今後、地域の人口減少等に伴い、利用者や売上げは減る見込みで、厳しい環境に

あるが、地域の福祉力向上の基本理念から、併設した水産加工施設の収益を補填することで地域の生活基盤となっている場所（組織）を守っている状況である。



写真 13 店舗での買い物の様子



写真 14 店舗での買い物の様子



写真 15 店舗に隣接する水産加工施設の外装



写真 16 店舗に隣接する水産加工施設の内装